
愛のあやかし、一人の奇跡。

碧露@厨学生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛のあやかし、一人の奇跡。

【Nコード】

N1027Z

【作者名】

碧露@厨学生

【あらすじ】

何か：とりまアレだ。うん。

説明が思いつきません。

何か：思い付きでつっぱしる得体のしれない何かです。

女子が暴走(?)する感じの…。

うーん？よくわからん！とえりあえず見ればわかる。。。() () 投げた

baso baso (、・、) 一話(前書き)

初心者が何やっているんだ…って感じの小説(？)です。
見なくてもいいですが見てやってください()()()

「大丈夫逃げないで…?」

コツコツ…。

「やっやめろくるな…!!!!」

ドカッ…ゴスッ

「う…」

「ふふふ安心して…」

グシャ…

「ほづら二度狂って元通り」

「あーあ…。つたく勘弁しろよなあ…」

シマがつぶやく。

この物語の主人公ともいえるような普通の男子、

リッガンシマ 率岩浸真もとい「シマ」だ。

なぜそんな発言をしたのかといえば、

彼のおさななじみの紋魏モンキリンネ燐音もとい「りずもん」が

好き勝手を言ってることからだ。

りずもんというニックネームの由来は、

彼女は昔から音楽の成績がとてもよく、

リズムカルだといわれていた。

そのリズムカルの「りず」をとり、

「もん」というのは苗字の「紋」魏からだ。

「おい何を立ち止まっているシマ！今日は図書館に行つて、ヲカルトな事を探すといつてるだろう！！」

りずもんがどなりちらす。

「おいおい…りずもん。別に本は逃げないんだからさ…」

「馬鹿かお前！！！！本は逃げなくても時間が過ぎていくだろう！！！！」

二人の口げんかが今日も始まる。

今日もシマ・リズモンが所属する「ヲカルト研究会」、「ヲカ研」の活動で忙しい。

りずもんは今年、三年生が居ないということで二年のりずもんが、会長のような存在になった。

そこで、どこにでもありそうな、「オカルト」というそのままの名前が嫌ということで、

「ヲカルト」に改名された。

そのヲカ研では、ヲカルトな事を探すべく、毎日忙しくいろいろなところへ行き、搜索している。

今日は図書館へ行き、色々な謎の本を探している。

「さあて諸君！！！！私（と研究会）用にヲタルトな本を探し出せ！！！！！！」

「そこ！！！！図書館では静かになさい！！！！！！」

りずもんが図書館で叫んだばかりにここの管理人（？）に叱りを受けた。

「…ということで、静かに探せ。」

「お前が一番あやしんだよ…」

シマがあきれたようにつぶやく。

研究会団員は約7名。約とつけたのは、3人は一度くらいしか顔を題していないからだ。

(そんな中、こんな会長?) (にどなられていい迷惑だぜ...)
シマのそんな思考が横切る。

そういったことをしてる後、もう時はすでに夕方。

「おいりずもん…そろそろ帰るぞ。」

りずもんがにらむように本と向き合う。

「いや…私はまだ残る。お前たちはもう帰っていい。」

「…」

勝手なことを言い出す会長に慣れを感じてるシマはおかしいものか。

「そうかわかった。じゃーな。」

まだりずもんは本と向き合ったままだった。

おはよう (、・、) 一話 (後書き)

あー…。

時間なくてあんま更新できないと思うけど
とりあえずよろしくです。はい。()()()

適当な作者ですませー!!!!!!

「興味深い本を見つけたんだ」(前書き)

PSPからです。

さつき一度内容消えました。

むかつきます。。。

その怒声は受話器越しにもかかわらず廊下に響きわたった。

「遅い！おまえはいつも遅い！！私の電話はつねに意識し、なった瞬間に受話器をとれ！！」

「残念だが、そんな高等スペックは持ってねーな。」
「りずもんの無茶ぶりに冷静な口ぶり。」

「で？用は何だ。」
シマが訪ねる。

「興味深い本を見つけたんだ」

「興味深い本を見つけたんだ」
（後書き）

終わった・・・。

次は新キャラが出ると思います。

呼び出しの準備はいいか？（前書き）

PSPでも投稿が出来ることがわかりましたW
ただし文字数制限があつて少なくなつてしまつたW

呼び出しの準備はいいか？

「興味深い本んんー!？」

サッとシマの頭に何らかの式がよぎる。

りずもんが興味ある本〃とんでもない本ー……。

こんなシマの考えはおそらく当たるだろう。

「まあ詳しい事は後だ。だからさっそくー。」

少しの間。

「……隙スキ乃公園に來い！」

どうせこんなことだろうと思っていたシマは適当に返事した。

「はいはいっと。で、いつだ？」

「今すぐにだ」

受話器ゴシでのりずもんの黒笑顔が見えた気がした。

「い、いや、今ったってりずもん、今は八時、バリバリの夜だぞ？」

「ああ、呼び出すには七時半以降とかいてある。」

「よ、呼び出す!？」

シマがりずもんが持ってきた本の内容を疑う。

「とりあえず来い!じゃあな」

ガチャツーツーツー。

受話器を置くなり上着をはおり、家からとびだした。

またあの怒声を聞くなんて冗談じゃねえ！
そんなシマの思考がすぐに行動にでていた。

- - - 隙乃公園 - - -

ガリガリガリー

「り、ずもんー？」

「お、シマ。今回は早いな。」

ガリガリー

「いや、じゃなくてよ。お前何書いてるんだ？」

ガリガリー

「見てわからないか？魔法陣だ。」

呼び出しの準備はいいか？（後書き）

また文字数制限ピッタリになったWW
てか新キャラ出せなかった・・・。

次は必ず新キャラでます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1027z/>

愛のあやかし、一人の奇跡。

2011年12月29日16時46分発行